

教師教育の「グランドデザイン」について

# 社会科学教育学の立場から

唐木清志（筑波大学）

# 社会科（地歴科・公民科）と教員免許状授与件数

- 中学校 1種では、保健体育に次いで第2位、高等学校 1種では、保健体育、外国語に次いで第3位の授与件数。

教科別の普通免許状授与件数（令和4年度）																									
		国語	社会	地歴	公民	数学	理科	音楽	美術	工芸	書道	保体	保健	看護	技術	家庭	情報	農業	工業	商業	水産	福祉	外国語	宗教	その他
中学校	一種	4916	6322			3928	3559	2349	1284			8675	367		484	1139							5890	53	3
	専修	356	536			547	659	354	155			367	19		76	81							434	11	1
高等学校	一種	5055		5269	5097	4289	4496	2445	1361	220	566	9142	381	89		1144	1493	404	1211	508	40	119	5979	69	93
	専修	377		420	350	612	866	392	156	30	22	380	19	1		82	81	19	147	38	5	6	450	12	2

令和4年度教員免許状授与件数等調査結果について（文部科学省HP）

# 社会科（地歴科・公民科）の採用者数・採用倍率

- 保健体育等と並んで、社会科の採用倍率が高い。

		教科別の採用者数・採用倍率（令和4年度）																					
		国語	社会	地歴	公民	数学	理科	音楽	美術	書道	保体	看護	技術	家庭	情報	農業	工業	商業	水産	福祉	英語	その他	
中学校	採用者数	1229	1237			1337	1245	499	361		1067		233	317							1466	161	
	採用倍率	3.4	6.2			4.3	3.1	5.0	3.3		9.7		2.1	2.7							3.6	2.7	
高等学校	採用者数	619		475	107	546	497	81	72	44	454	15		156	113	125	310	147	24	27	677	5	
	採用倍率	3.6		6.2	7.8	6.2	5.9	5.4	4.7	7.0	10.2	1.6		3.4	4.8	4.4	2.9	6.6	2.0	3.4	3.3	1.6	

# 「グラウンドデザイン」の全体的な評価

- 大学カリキュラムの三つの構成要素
  1. 探究力や市民性・感性を支える基礎教育〈**市民的教養**〉
  2. 教員養成の基層としての教育学〈**教育学的教養**〉
  3. 「教科専門」と専門科学のディシプリン〈**教科の教養**〉

→基礎教育を〈市民的教養〉と位置付けることは、大学の使命を明確にするためにも重要であり、社会科教員にそれは必要不可欠な資質となる。
- 「6年間を見通した教員養成システム」は、大学院生の学びの過程とその後を見た時に、意義あるシステムであると考える。
- 「大学院修学休業制度」を活用して入学する大学院生が増加しており、多様なルートを確保し、制度を整える必要がある。

# 「グラントデザイン」のモデル化の課題①

## ー「教師教育エッセンシャル・カリキュラム」ー

- 市民性の育成を目標とする社会科では、〈市民的教養〉を有す教員の養成が極めて重要になる。多様性（ダイバーシティ）の感覚なくして、社会科教員を務めることはできない。
  - 「教職課程エッセンシャル・カリキュラム」に、この視点をどのように組み込むかが、社会科教員養成にとっては生命線となる。
- 「教師教育エッセンシャル・カリキュラム」を編成・運用するにあたり、三つの構成要素（市民・教育学・教科）を有機的に関連付けることは相当に大変なことである。
  - 大学の組織の類型に関わらず、である。
  - 社会科であれば、学生を社会的課題の解決に関与させる「社会実践科目」（ex.サービ斯拉ーニング等）の設置が思い浮かぶ。

# 「グランドデザイン」のモデル化の課題②

## ー「教職課程エッセンシャル・カリキュラム」ー

- 「『教職課程エッセンシャル・カリキュラム』は・・・教育関連学会連絡協議会等に委託する」とあるが、それは可能か。
  - 〈教科の教養〉に関しては、社会科であれば、人文・社会系専門学会の協力を得ないと、教育内容を軽視することにつながりかねない。
- 基礎免許状と標準免許状の双方において、「教育学的教養」と「教科の教養」の関連性には検討の余地が残されている。
  - 基礎免許状では、教科の指導法と教科に関する専門的事項の間にさえ、十分な連携が図られているとは言えない。（これに限らず、科目間連携の不十分さは、さまざまなところに見られる。）
  - 標準免許状では、「教育臨床研究」が鍵を握ると思われるが、「教えることを意識した教育学的知識または教科知識の再構成」という言い方からして、どのようなものをイメージするのが難しい。

# まとめ

- 「教育実習を経験して、自分に足りない力は何だと思ったか」という設問に対し、多くの学生が答えるのは「教科の専門性」である。その数は、「教科の指導法」「生徒指導」「学級経営」といった教育学に関わる事項を大いに上回る。
- 中学校及び高等学校の教育実習では、それが顕著である。
- 教師教育の「グラウンドデザイン」は、教育的に見て、また、教師の力量形成という観点から見て、賛同できる点が多く、ぜひ実行して欲しいと考えている。しかし、その一方で、教科教育学（例えば、社会科教育学）の立場からすると、教育内容（例えば、人文・社会諸科学）が軽視されているようにも感じられ、その点で、改善の余地が残されていると思う。